国土交通省東北地方整備局
Tohoku Regional Bureau
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

記者発表資料

令和４年９月３０日
福島河川国道事務所

令和元年東日本台風で被災した阿武隈川上流の災害復旧工事が完了

令和元年東日本台風により被災した箇所の復旧事業として、阿武隈川上流直轄河川災害復旧事業を進めてまいりましたが、９月３０日をもって全８０箇所の復旧が完了しましたのでお知らせします。引き続き、阿武隈川緊急治水対策プロジェクトにより築堤、河道掘削、遊水地整備等の治水対策を進めてまいります。

〈阿武隈川上流直轄河川災害復旧事業〉
全体事業費　約１２１億円
工事期間　令和元年～令和４年度
工事内容　堤防復旧、護岸工復旧、床固工復旧、
漏水対策、樋門樋管等復旧　計８０箇所
〈災害復旧工事の状況〉別紙参照

瀬上地区（福島市）



復旧前



復旧後

弁天地区（本宮市）


復旧前


復旧後

浜尾地区（須賀川市）


復旧前


復旧後

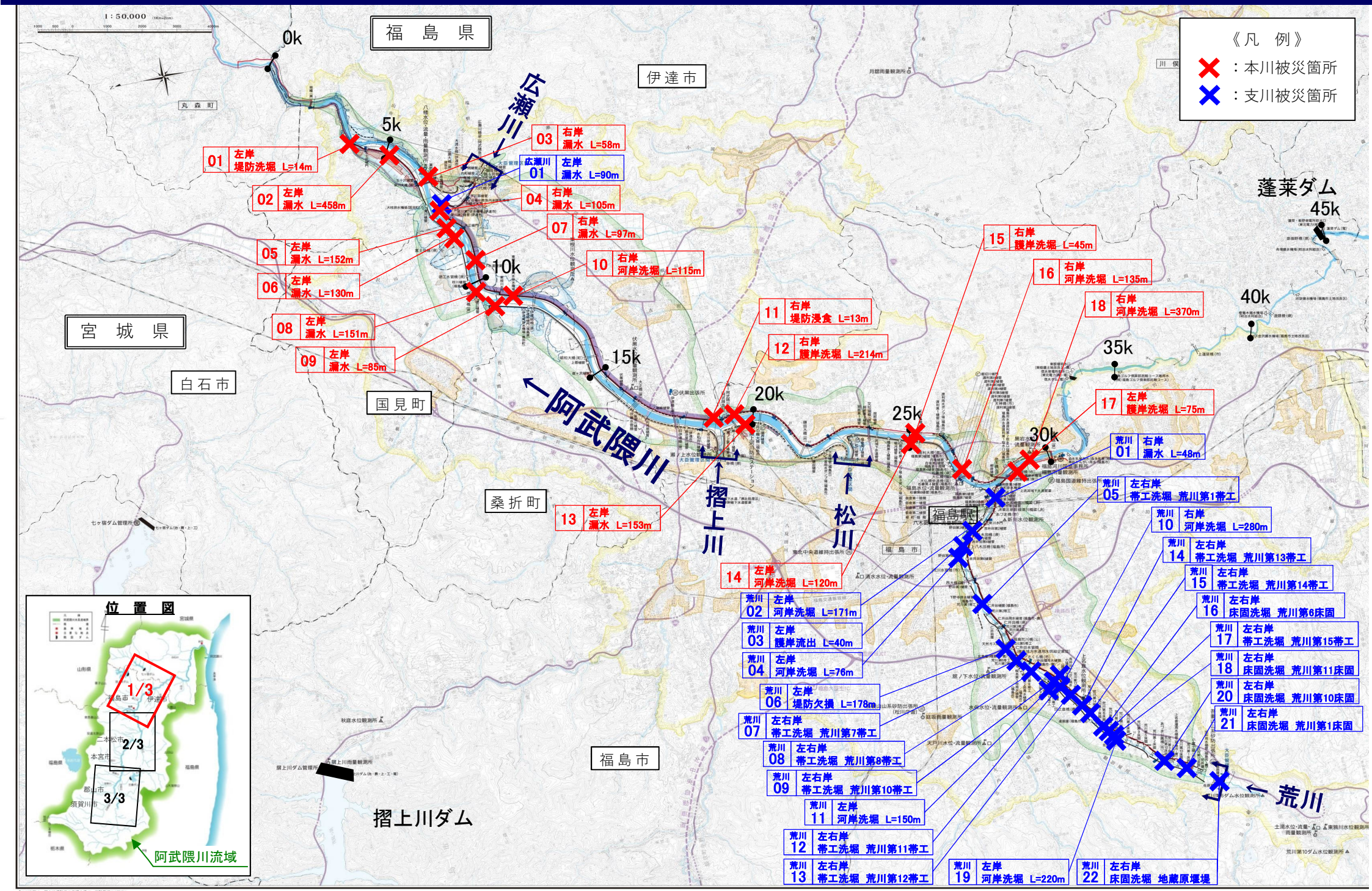
《事務所管内の情報は、右記の URL からご覧ください》　https://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/

発表記者会
（福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ、郡山市記者クラブ、須賀川市記者クラブ）

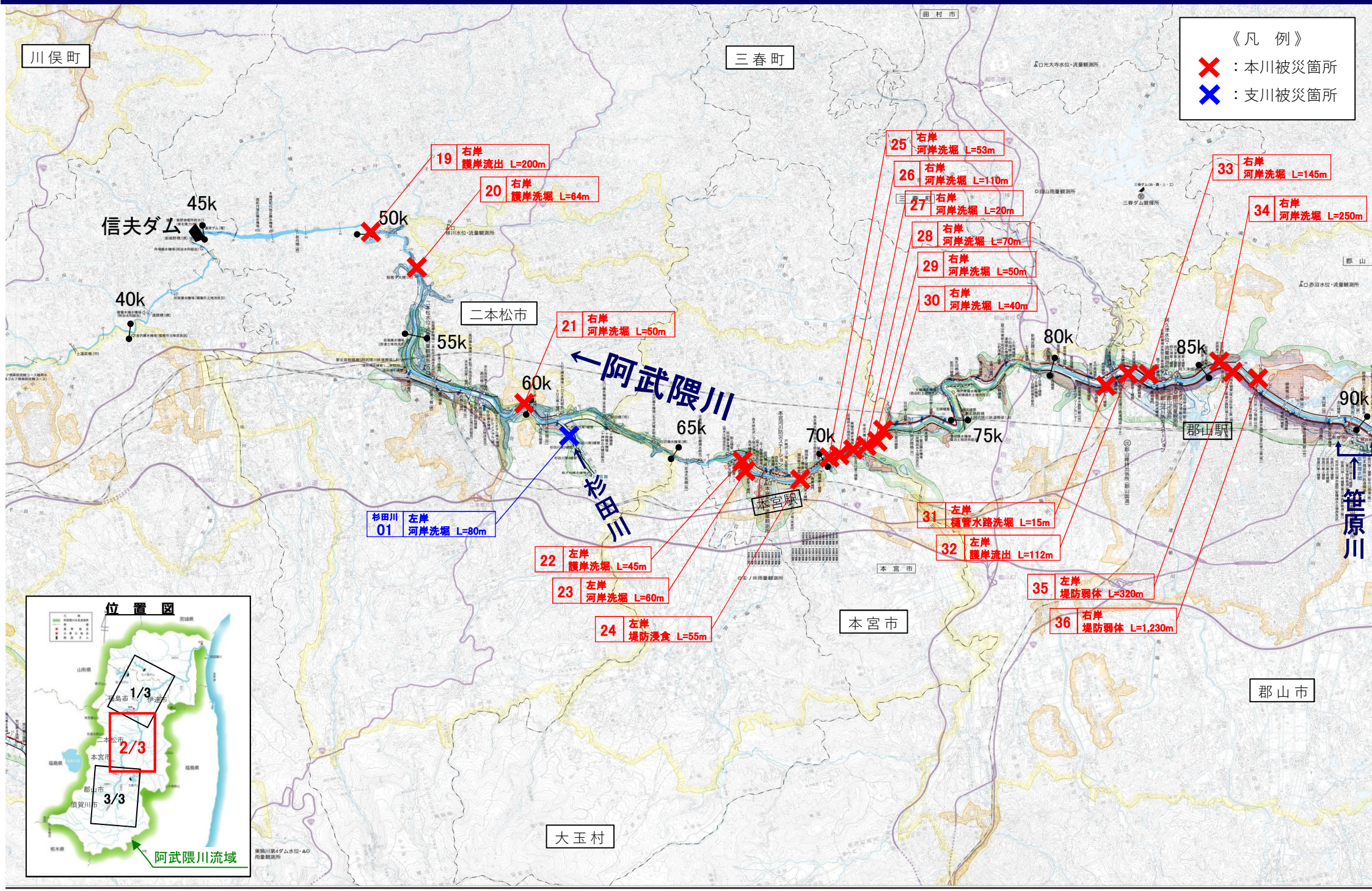
問い合わせ先
◯国土交通省　東北地方整備局　福島河川国道事務所
福島県福島市黒岩字榎平３６　TEL０２４（５７３）２１９１（直通）
事業対策官　土田（つちだ）　昭夫（あきお）（内線 208）　事業対策課長　齋藤（さいとう）　昭二（しょうじ）（内線 381）

阿武隈川上流災害復旧箇所位置図（1/3）

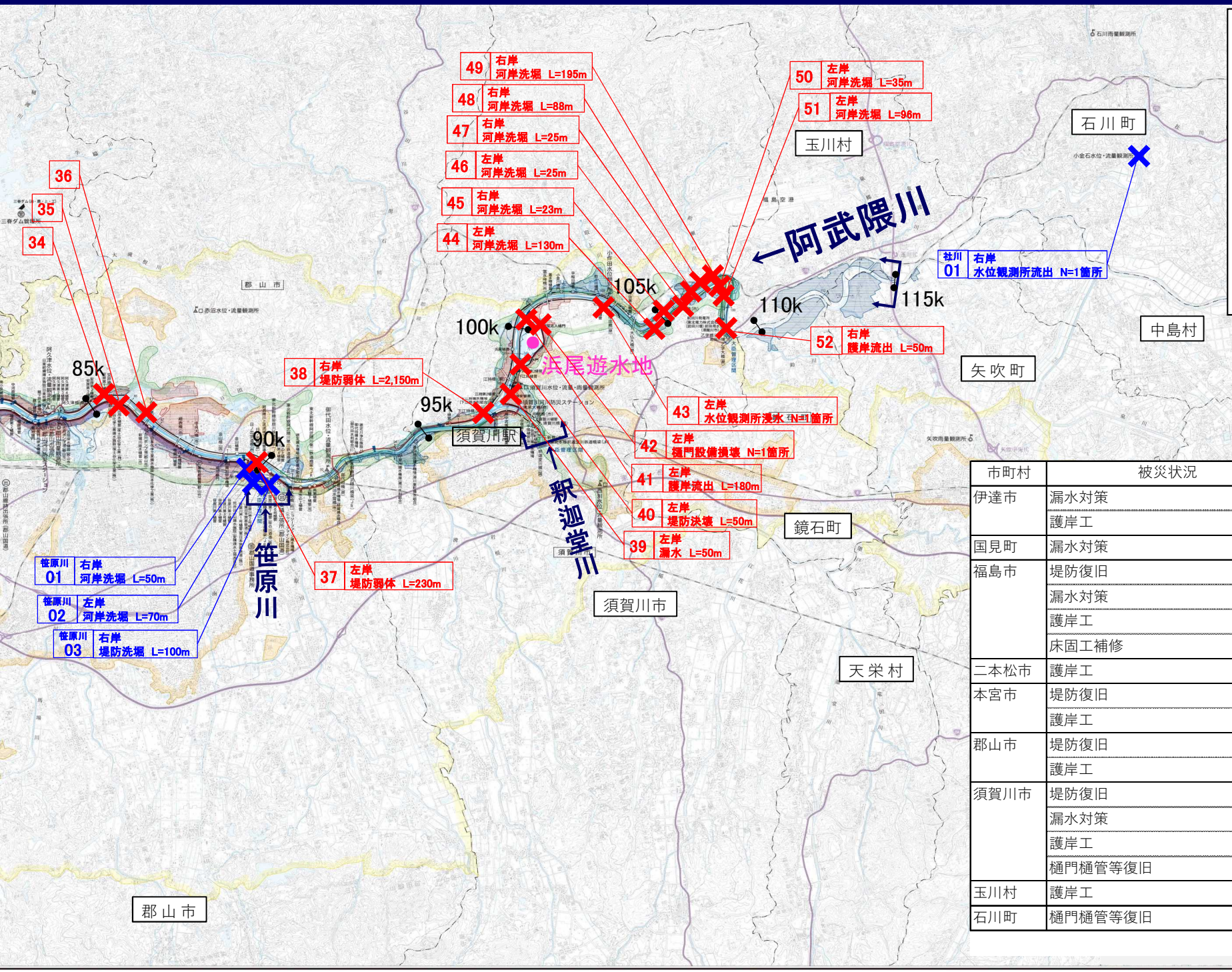
別紙

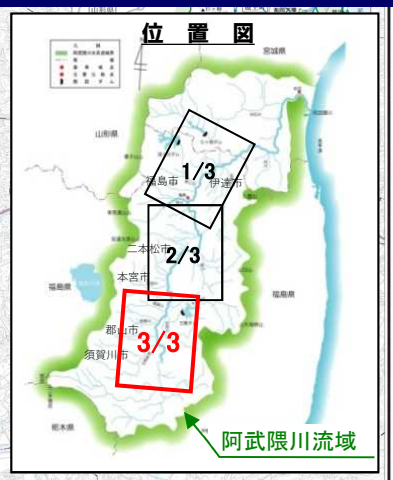


阿武隈川上流災害復旧箇所位置図（2/3）



阿武隈川上流災害復旧箇所位置図（3/3）





《凡　例》
✕：本川被災箇所
✕：支川被災箇所

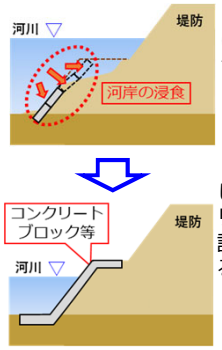
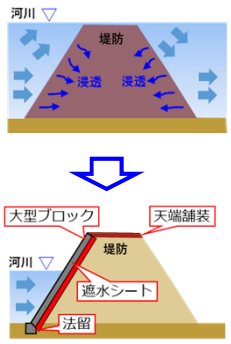
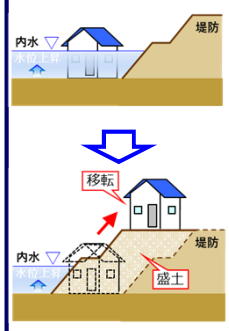
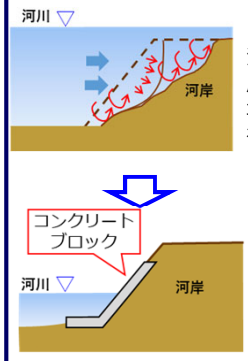
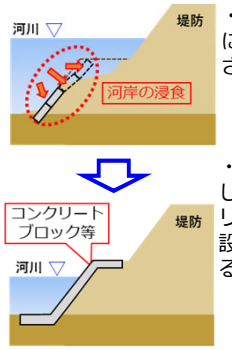
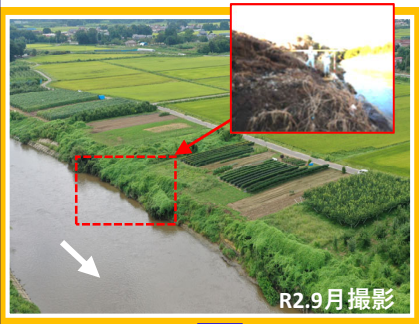
市町村	被災状況	箇所数
伊達市	漏水対策	5箇所
	護岸工	1箇所
国見町	漏水対策	5箇所
福島市	堤防復旧	2箇所
	漏水対策	2箇所
	護岸工	12箇所
	床固工補修	14箇所
二本松市	護岸工	4箇所
本宮市	堤防復旧	1箇所
	護岸工	8箇所
郡山市	堤防復旧	4箇所
	護岸工	6箇所
須賀川市	堤防復旧	2箇所
	漏水対策	1箇所
	護岸工	9箇所
	樋門樋管等復旧	2箇所
玉川村	護岸工	1箇所
石川町	樋門樋管等復旧	1箇所
		80箇所

国土交通省 福島河川国道事務所
平成29年3月作成 SC 興寿チャート株式会社 福島営業所 電話 024-544-0212

阿武隈川上流災害復旧状況（1/2）

	伊達地区 阿武隈川２（漏水）	国見地区 阿武隈川９（漏水）	福島地区 阿武隈川１２（護岸洗堀）	福島地区 荒川２０（床固・帯工洗堀）	二本松地区 杉田川１（河岸洗堀）
復旧工法	●漏水(遮水シート＋鋼矢板) ・堤体内に河川水が浸透し、川裏法尻付近で漏水が確認されている。 ・遮水シート＋鋼矢板を設置することで、堤防への浸透を防ぐことができる。	●漏水(遮水シート＋鋼矢板) ・堤体内に河川水が浸透し、川裏法尻付近で漏水が確認されている。 ・遮水シート＋鋼矢板を設置することで、堤防への浸透を防ぐことができる。	●護岸洗堀(コンクリートブロック) ・水位、流速の増加により堤防部が侵食され崩壊の進行。 ・壊れた護岸を復旧した上で、コンクリートブロック等を設置し侵食を抑制する。	●床固・帯工洗堀(根固ブロック) ・河床勾配が急なため流速が速くなり、河床洗堀が起きやすい。 ・破損した床固・帯工を復旧した上で、洗堀された場所はコンクリートブロック等で復旧する。	●河岸洗堀(かごマット) ・流速増加により流体力の増加、河岸に作用し河岸洗堀、側方侵食が進行。 ・かごマットを設置することで、河岸の洗堀を防止する。
被災状況	R2.7月撮影	R2.9月撮影	R1.10月撮影	R2.6月撮影	R2.7月撮影
施工中	R3.2月撮影	R3.3月撮影	R3.3月撮影	R2.12月撮影	R2.12月撮影
完了	R3.7月撮影	R3.7月撮影	R3.8月撮影	R3.9月撮影	R3.3月撮影

阿武隈川上流災害復旧状況（2/2）

	本宮地区 阿武隈川２２（河岸洗堀）	郡山地区 阿武隈川３７（堤防弱体）	須賀川地区 阿武隈川４２（樋門設備損壊）	須賀川地区 阿武隈川４４（河岸洗堀）	玉川地区 阿武隈川５２（河岸洗堀）
復旧工法	●護岸洗堀(コンクリートブロック)  ・水位、流速の増加により堤防部が侵食され崩壊の進行。 ・壊れた護岸を復旧した上で、コンクリートブロック等を設置し侵食を抑制する。	●堤防弱体(大型ブロック+遮水シート)  ・高水位が長時間継続したために、河川水の浸透が生じた。浸透水により、堤体強度が低下。 ・大型ブロック+遮水シートを設置することで、堤防への浸透を防ぐことができる。	●樋門設備損壊(嵩上げ・移設)  ・提内水位の上昇により、樋門操作室が浸水。 ・樋門操作室の地盤の嵩上げ、移設を行い洪水時の水位上昇に伴う浸水を防ぐ。	●河岸洗堀(コンクリートブロック)  ・流速増加により流体力の増加、河岸に作用し河岸洗堀、側方侵食が進行。 ・コンクリートブロックを設置することで、河岸の洗堀を防止する。	●護岸洗堀(巨石練張)  ・水位、流速の増加により堤防部が侵食され崩壊の進行。 ・壊れた護岸を復旧した上で、コンクリートブロック等を設置し侵食を抑制する。
被災状況					
施工中					
完了					